

し ま っ た ! 【中学年 1 - 2】

- 主人公の気持ちに寄添いながら価値に迫る -

(1)主題名 よく考えた行動 【 1 - 2 】

(2)ねらい 自分の言動を振り返り、よく考えて行動しようとする態度を育てる。

(3)資料名 「しまった！」

(4)授業の展開例

| | 学 習 活 動 | 主な発問と児童の心の動き | 留 意 点 |
|--------|---------------------------------|---|--|
| 導 入 | 1 休憩時間の過 ごし方を発表し 合う。 | どんな遊びが楽しいですか。 ・なわとび ・ドッジボール ・おにごっこ | 遊びの楽しさに焦点をあてて 発言させる。 休憩時間に楽しそうに遊んで いる写真やビデオを紹介する。 |
| 展 開 | 2 資料を読み、 主人公の行動に ついて話し合う。 | チャイムがなった時、ぼくとあつし はどんな気持ちでしたでしょう。 ・もっとサッカーをして遊びたいな。 ・早いな、もう、そうじかあ。 「ぞうきんがけ競走をしよう」と言 われたときのぼくの気持ちを考えま しょう。 ・楽しくそうじができるかな。 ・そうじ時間だからやめたほうがいい けど・・・ ・ろうかは危ない。 ・あつしに「やめよう」と言おうかな。 | 場面絵を提示しながら、資料 を読み聞かせる。 心の中では、迷いがあったか もしれないことを発表し合い、 声をかけられた時、よく考え たらやめることもできたとい うことも考えさせる。 |
| | 3 ぼくの気持ち について考える。 | 集まってきた友だちの中で、ぼくは 何を考えているのでしょうか。 ・ぼくをぞうきんがけ競争にさそった あつしが悪いんだ。 ・ぞうきんがけ競走を断ればよかった。 ・あつし、ごめんね。大丈夫かい？ | ぼくの気持ちによりそって考 えさせる。 謝るべき人はだれなのかに気 付かせ、謝るには勇気がある が、言葉にすることの大切さ にも迫れるようにする。 |
| | 4 自分の体験を 伝え合う。 | 「しまった！」と思ったけど、次か ら改めてよかったという経験はあり ますか。 ・ろうかを走って人にぶつかりそうに なり、その後走らないようにした。 | 改めて行動した時の気持ちよ さをしっかりと取りあげて、実 践意欲をもたせる。 |
| 終 末 | 5 「心のノート」 を読む。 | 「心のノート」の P 1 8 , 1 9 を読 みましょう。 ・ごまかさず正直に生活することが大 切なんだ。 | 「心のノート」を活用し、「よ く考えて、過ちを改めること で自分のよさがのびていく」 というプラスの方向を知らせ る。 |

しまった！

サッカーで楽しんだ昼休みが終わり、そうじ時間が始まった。ぼくとあつしは、そうじ場所にかけてきた。

そうきんをもつと、あつしが話しかけてきた。

「おい、そうきんがけ競走しようぜ！」

「えっ！」

「としおが立っているところまでだぞ・・・よい、どん！」

ぼくは、いつしゅん考えたが、結局あつしの話にのつた。

昼休みの続きみたいなもんで、元氣よくスタートした。スピードがでる。としおの所まで、あと少し。あつしもスピードをあげてきた。

（ようし！ゴールだ。ヘッドスライディング。）

そうきんといっしょにすべりこんだしゅんかん、としおが持っているほうきにぼくの手があたった。

「あつ。」

ほうきが大きく動き、ぼくの横にすべりこんだあつしのおでこに、いきおいよくぶつかった。

「いったあい！」

あつしは、真っ赤になったおでこをおさえて、うずくまった。そして、いたさにたえきれず大きな声を出して、泣き出した。

あつしのなき声は大きくなるばかり・・・そこへ、心配そうに友だちが集まってきた。

「どうしたの？」

「あつしくん、だいじょうぶ？」

ぼくはあつしをかこむ多くの友だちの中にまじって立っていた。

活用に生かすための実践報告

「しまった！」

1 主題の設定

・自分の言動の結果，どうなるかまでは考えにくく，軽ずみな行動や自己中心的な言動がみられがちなこの時期の児童に，「よく考えた言動」についてこの資料をとおして考えさせたい。

・自分の失敗に気付いたら，すぐに謝る素直さについて考えさせたい。失敗はだれにでもあることだが，素直に過ちを認めること・謝ることによりよい生活や友人関係が築けることに気付かせたい。

2 指導過程の工夫

・資料提示では，状況を分かりやすくするために場面絵を活用する。

・ぞうきんがけ競走に誘われた時の心の迷いや「しまった」と気がついたことが分かりやすいような板書の工夫をする。

3 発問の工夫

・展開後段の自分の生活を振り返る時は，「しまった」ということをしてしまったけれど，謝ってよかったという経験を尋ね，すぐに相手に謝ったり自らの行動を改めたりした時の気持ちよさやさわやかさに焦点を当てる。

4 児童の反応（授業後の感想）

【ぞうきんがけ競走に誘われた時のぼくの気持ち】

- ・昼休憩のサッカーの続きだ。
- ・楽しそう。
- ・友だちだから断れない。
- ・やりたいけど，おこられそう。
- ・そうじだからしてはいけない。

【集まってきた友だちの中で考えたこと】

- ・すぐにあやまろう。
- ・あつし，大丈夫かな。あやまろうかな。でも，あつしがぞうきんがけ競走をやる

うとさそったから・・・

・あの時，ぞうきんがけ競走をやめればよかった。

【児童の体験から】

・ケンカをしてすぐに謝ったら，その日からもっと仲よくなったことがある。

・ああ，こんなことを言うんじゃないかったということがあった。「ごめん」の言葉は大切だと思った。

・ぼくは謝れるかな。さっと謝れる人っていいな。

・ぞうきんがけ競走に誘われた時に，よく考えたらよかったのに・・・わたしなら止めていた。こんなことになる前にもっと考えた行動をとらないといけない。

5 実践者からの一言

・頭では分かっているけど，行動が伴わず，事故が起きてから反省するという生活の中によくある事例を資料として用いたため児童は考えやすかった。

・素直に「ごめん」と言え，過ちはすぐに改めようという本時のねらいに沿いやすい指導過程であった。

・実践者が体験した実話である。すぐに解決できそうなことなのに，謝ってもらえなくて後味が悪かった。だれにでも失敗はあるので，反省し，「ごめんね。」と謝ることの気持ちよさやそのことで伸びていく自分に気付かせたい。

（幟町小学校 田中雅美）